

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人 永楽会		
事業所名	グループホームそよかぜ		
所在地	宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-11		
自己評価作成日	平成 22 年 8 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>高齢化が進み、機能低下に伴い活動力も低下している現状の中、余暇活動の充実、リハビリを行い機能維持を図っています。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設9年目のグループホームである。「富谷町たより」を入居者に渡し地域行事への関心を深め、「秋の交通安全運動」の出動式にも職員と参加している。また身体機能の低下に伴い転倒し易い等入居者の現状に配慮し、ホーム内でのゲートボウル、ボーリング等のゲームや系列施設でのリハビリ等の方法を探り、機能維持に努めている。入居者とのかかわりは信頼に裏づけされた落ち着きがうかがえ、「電球が切れた時、布団の敷き方が分からなくなった時」自室でそっと相談している。前年の外部評価での期待したい項目は「独自理念の作成」「ケアプランの見直し期間」等4項目あったが「看取りへの取り組み」を継続とし他は達成している。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 そよかぜ

)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア会議で理念作りを行い、理念の元に支援するよう心掛けている。	今年度グループホーム独自の理念を作成し掲げ、困った時、迷った時、基本に立ち戻って入居者への支援等を振り返っている。理念に沿って常に入居者と共に思いやりと笑顔を忘れない等実践が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、春、秋の交通安全街頭、地域のお祭りに参加し、交流が持てるようにしている。	町内会に加入し、配布される「町内会だより」を入居者にも渡し、行事等話題を提供している。町内の夏祭りに出掛け、法人の夏祭りで地域の人々と交流し、町の新人職員、高校生を研修生として受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を持ち、利用者の状況、取り組みの話し合いをし、意見をもらっている。	会議を5回開催し行政職員は4回出席した。入居者も出席し定義詣り等や家族からは管理者異動時の対応等要望された。テーマにより第三者委員、消防署職員等知見者を交え、より活力のある運営を期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告書、推進会議、電話での状況報告をしているが、電話での報告の記録はしていない。	町や包括支援センター主催の研修会には極力参加し、「地域福祉フォーラム2010」への取り組みなど協力、連携がみられる。前回運営推進会議への定期的な参加を期待したが今年度は4回と目標を達成している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の状況に応じて身体拘束を行わない支援を工夫している。	「身体拘束等」の研修会に参加し共有を図っており、今まで拘束の例はない。入居者の尊厳を守る上で絶対行ってはいけない事と全員が認識している。玄関、居室への鍵掛けは見られず、不意の外出に際しても周囲の見守り、連絡支援がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等には参加はしていないが、虐待はしていない。してはいけない気持ちを常に持ち支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護の研修会等には参加していないが、スタッフへの意識を持ってもらうように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を十分に行い理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に話を聞き、運営に反映させるように努めている。	運営推進会議の開催時、全家族に通知し意見反映の機会としている。毎月入居者の生活記録表のコピーを送付して身心状況、暮らしぶりを伝えて要望、相談を気軽に話してもらう手だてとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議等で職員の意見を取り入れ反映させるようにしている。	ケア会議では活発な意見が交わされ検討もしている。食事時むせる事が多い人へのソフト食の提案や、転倒し易くなった人の居室の配置換えも検討、実施した。職員は各委員会に所属し運営面でも力を発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を考慮したうえで、その能力が発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のGH交換研修を行ったり研修会の機会を儲け、育てる努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH交換研修を行い、サービスの向上やケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が何を求めているのか、何をしたいのかをじっくり聞き、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意向や、相談事があった際は、じっくり話を聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、洗濯物を干したり、一緒に行い、生活を共にしている事を感じてもらうように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	墓参り等の外出、電話で話せるような環境作り、互いに支え合う関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋に出かけたり、知人が気軽に訪問できるような環境作りに努めている。	家族とお墓参りや盆、正月に自宅に帰る人、入居者一人ひとりの馴染みの関係に配慮し支援している。同一敷地内にある他施設の人々とはひな祭り、豆まきなど季節の行事での交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談にのったり、気軽に訪問できるような環境作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体の支援に努めているが、困難な場合には家族と相談している。	入居者の思いは常に不安の中で揺れ動く事を職員は理解し、現状の把握、共有に努めている。居室での「私は此处に居ていいの」「電球の取替え方」「布団の敷き方が判らない」等の思いに日々向き合い支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の記録を作成し、日々の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向を確認し、計画を作成している。	転倒しやすい入居者のプランに医師の指示書で、リハビリとして家族の意向で座布団縫い、編み物を組み込んでいる。3ヶ月毎に見直し、家族の同意を得ている。毎月のモニタリング等外部評価での期待目標を達成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調等の変化で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、ドライブ等に出かけ、楽しみを持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状況に応じて主治医と相談している。	本人、家族の希望による受診支援が行われている。受診に同行する家族との情報伝達、事後の共有も適切であり、この場合も協力医でのカルテも作り緊急時に備えている。看護師資格のある管理者の着任も心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時、処置等、特養の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、入院中の状況伺いや、状況の経過を聞き取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と面談し、家族も交え今後について話し合いを行っている。	前回外部評価での要期待項目であった「看取り」への指針の成文化と意思確認等の取り組みは、個別対応であり、同法人グループホームの実施例を研修し、職員と検討している段階である。今後も継続して取り組み入居者、家族の安心につなげていきたい。	研修、話し合い等進展はみられるが、目標達成には至っていない。7月に交替した管理者は看護師資格があり、今後に向けた支援取り組みの進展を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。	4月に消火訓練を実施し、町主催の総合防災訓練の参加を11月に予定しているが、今年度、夜間想定での避難訓練が未実施である。又、地震を想定した避難訓練の実施も願いたい。スプリンクラー工事中である。	非常災害対策としてマニュアルを作成し、定期的な避難訓練の必要性も十分に認識しているが、一部不十分であり、今後夜間想定での避難訓練も実施し消防署の指導も得ていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった声掛けや、支援をしている。	本人への呼びかけは基本的に名前にさん付けしているが、本人の希望により「ばっば」など馴染みの呼びかけをする事もある。職員の声掛け、トーンはゆったりと穏やかであり本人を尊重したさりげない支援が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志が表せるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している。	入居者は米とぎ、野菜刻み、茶碗洗い、下膳等出来る事を行い、食事も共にしている。食前後のお茶や牛乳、ヨーグルト等配慮し、配達後の入居者による検品時は賑やかである。管理栄養士の助言も得られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時の口腔ケアの支援をしている。一人で出来る方には声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄支援を行っている。	排泄が滞ることで顕著に支障がみられる入居者もあり、職員は連絡帳等で情報を共有しトイレ誘導に努めている。状態をみながらリハビリパンツから布パンツとパットに替え、マツサージ、散歩を奨めるなど支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を調整したり等、個々に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の意向を聞き取り、入浴をしている。	毎日の入浴を声がけし意向に添った入浴支援がみられる。毎日、一日置きにとそれぞれであるが、夜間も希望に沿っている。拒む人にもタイミングを図り、再度声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ昼寝をしたり、夜間帯は睡眠の妨げにならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、一人ずつ名前の確認をして服薬支援をしており、症状の変化は常に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備の手伝いや、個別に外出したり、役割等も持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定義山参拝、地域の祭り等に出かけたりしている。	飼い犬との散歩や広い敷地内の散歩は日常的であり、職員は買い物に行く時はできるだけ入居者を誘って出掛けている。日頃の会話の中で意向を聞き取って出掛けたり、季節毎にも行事を計画して外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額ではないが、手持ちで持っている。なくしてしまう方は家族より預かり使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられる場所に置いてある。又、年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物を多くし、絵を飾ったり家庭的な暖かみを工夫している。	食堂兼用のリビングは三方が開け自然光が差し込みとても明るい。オープンキッチンとの距離も近く職員は入居者と関わり話題を提供している。正月、ひな祭り、七夕など季節毎の飾りつけを一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所が数箇所あり、気の合う方が話し込んだりしている。又、家族の面会時にはお茶を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、仏壇やタンスを持ち込み、安心できる自室になっている。	入居時に意向をうかがい、ベッドか布団かを決めている。毎朝仏壇に水、お茶、ご飯を供えることを大切な日課とする人や布団のあげ下げをこまめにする人など自分の家として穏やかに日々を過ごしている様子がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手摺りを設置、自室入口には表札を掲げている。		